

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：北島委員（一部事務局修正）

| | | | | | |
|--|-----------------------------|-------|--------|-------|-------|
| (1) 会議の名称 | 大田区自立支援協議会 第13回 防災・あんしん部会 | | | | |
| (2) 開催日時 | 令和5年1月11日(水) 13:30 ~ 15:30 | | | | |
| (3) 開催場所 | 障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室 | | | | |
| (4) 出席した 委員、事務局等 | 委員 (部会長：志村 陽子) <敬称略> | | | | |
| | 蛭子 明子 | 山内 京子 | 一色 ふみ子 | 生駒 友一 | 石塚 由江 |
| | 宇田尻 浩司 | 北島 拓也 | | | |
| | 事務局：森合 美穂、大本 哲也、江川 奈保美、堀内 蘭 | | | | |
| 1 連絡・確認事項 | | | | | |
| (1) 司会・書記の確認 | | | | | |
| (2) 出欠者・オブザーバー参加者・配布資料の確認 | | | | | |
| (3) 第10回大田区自立支援協議会運営会議の報告 | | | | | |
| 各専門部会からの活動報告があった。全体を通じた学習会を開催する案や、いまの体制では子どもという視点で焦点を当てにくいことなどを検討した。部会を通して声があがることを妨げない協議会としたい。2年の任期の間に本会を3回実施したうえで、部会間の交流会や研修会を行う予定。 | | | | | |
| 2 前回の振り返り | | | | | |
| 第12回専門部会の議事録・ご意見カードの確認。 | | | | | |
| 3 議題 | | | | | |
| (1) 「避難行動要支援者対策連絡会議」の報告 | | | | | |
| 福祉管理課 計画調整担当 河野係長から | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 区内での個別避難計画の対象者は約18,000名で、水害時に避難する必要がある方にはケアマネジャーや職員が直接携わって作成を進めている。 高齢者では、特に浸水エリアに独居かつ要介護度が高いなど災害時の危険度が高い90名のうち、作成に同意した60名はケアマネジャーに委託して作成している。事業所に協力を仰ぐなどして、作成の同意を得られなかった方にも作成をお願いする予定。 障がい者では、職員が230名に訪問調査し、110名には作成の同意が得られ、これから作成する(11月8日時点)。 本人か家族が個別避難計画を作成することが大半なので、今後はそれを把握したい。 どこに避難する予定か、手伝ってくれる人やその方法などの調査を行なう予定で、それを元に避難スペースの確保や地域の支援の配置を調整することになる。 作成の対象者18,000名中、要配慮者名簿として自治会等に情報を共有することに同意しているのは7,000名程度である。自治会の方も高齢化で、すべてに対応できるわけではないのが実際だ。 水害時のハイリスク者対策としては、避難所開設のタイミング、福祉避難所への直接避難者について、制度上の課題、移送支援、避難先の確保の5つの課題を挙げて検討している。 | | | | | |
| (2) 「個別避難計画」の意見交換 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 手話通訳者も配置された避難スペースに避難できると助かる。すべての避難所では無理だと思うので、事前に説明して理解してもらい、行政とも連携して配慮してもらう必要がある。自身は個別避難計画を作成していないが、大田区聴覚障害者協会で防災地図を作成した。 マイタイムライン学習会に2回参加した。要支援者名簿は視覚障害者協会の全員分を提出している。個別には一次避難所を把握してもらっている。3月11日に連絡を取り合って居所を伝える練習をしている。 個別避難計画は職員と一緒に作成したが、なぜこれが必要か悩む。行政に名簿を提出しているので、それで十分ではないかと感じている。ガイドヘルパーとも事業所との契約 | | | | | |

であり、個人を支援してもらえないわけではない。発災時に外に出ると危険なので可能な限り家にいることになる。最終的には自身で安全を確保するしかない。

- 皆さんの意見を大事にして良い方向に進めると良い。災害という事態を考えるのは重たいが、自然と社会の中で生きていかざるを得ない。プラスの方向で考えて、普段の生活の中で暮らしやすくすることが災害のときにも活かされる。まちづくりの一環としてみんなで前向きに捉えて楽しい作業としてやっていきたい。
- 大田区は災害時の要配慮者への対応に一步踏み出しており、ありがたく感じる。情報共有と個人情報保護は課題としてあるが、以前の災害時にあと少しの支援があれば助かったのに近所からの手が届かず亡くなった方もいる。実際に被災したときは、臨機応変に対応する必要がある。地域防災計画のような小さな計画を立てておくなど、日頃から町会や自治会で本音を出し合って話し合っていると良い。
- 家族の個別避難計画の作成に同意した。区から自治会などに伝えていただくのはありがたいが、そのような場があるなら自分で参加して伝えたい。他にも要支援の人で話したい人を一緒に呼ぶと良いのではないか。実際には一次避難所に行くのは難しく、在宅避難になるだろうが、避難所だけでなく在宅でも情報を得られると良い。また、福祉避難所では介護する人が一人ということだが、大変だろう。家族も一緒に入ることができれば、お互い助け合うことができる。
- 緊急の場合は在宅で過ごし、余裕がある場合は実家に事前に避難する。自身の住むマンションの周りでも、安否確認など身近な人に安心して言える環境づくりが必要だ。個別避難計画作成を通して、いざとなったらあの人にも、と日常で思えるようになると良い。自治会によっては、地図にピンを打って要配慮者を把握しているところもある。いろいろな場面で地域を巻き込んでいきたい。

(3) 「令和3・4年度防災のまとめ」について

議題としていたが、時間の関係で省略。令和3・4年度の全体のまとめを行う作業部会を1月31日(火)に開催する。

4 委員及び各関係機関からの情報提供

(1) 情報提供

- 2月2日(木) 14:00~16:00に障害者差別解消法研修をさぼーとぴあにて開催。
- 2月2日(木)から3日(金)に第27回「震災対策技術展」がパシフィコ横浜Dホールにて開催される。詳細は、事務局からメールにて案内する。

(2) ご意見カード記入

※次回の日程

専門部会：令和5年2月8日(水) 13時30分~15時30分

さぼーとぴあA棟5階多目的室